

祐善寺だより

第17号

発行日

2006年10月30日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



尊いのは
頭でなく
手でなく
足の裏である

一生人に知られず
一生きたない処と接し
黙々として

その務めを果たしてゆく
足の裏が教えるもの

しんみんよ
足の裏的な仕事をし
足の裏的な人間になれ

さかむらしんみん
坂村真民

仏法なまれ 世の中安穩なれ

住職 岡崎 賢

わが宗祖・親鸞聖人は、御在世中の大半を戦国乱世の中で生きられた、と言つても過言ではありません。

貴族の家でご出生された親鸞聖人は、源平の戦いや飢饉で死者が京都の街に溢れ、死臭が漂うなかで「生死」に真摯に向き合い、貴族の家を捨て九歳で得度をして仏門に入られたことは、皆様もご存知のことだと思えます。

親鸞聖人のご生涯をここで詳述することはできませんが、その九十年のご生涯は、まさに戦乱と激動の時代でありました。その、ご生涯の中から親鸞聖人は、「世の中安穩なれ。仏法広まれ」（『御消息』）と平和を強く願われました。

私共の住んでいるこの世の中は、一体どうなったのでしょうか？親が子を殺し、子が親を殺す。何の罪もない子ども通りがかりの狂人が誘拐して殺す。認知症の妻の介護が苦になつて無理心中で二人の人生を終える。大学の教授が痴漢をし、警察官が飲酒運転をする。生徒は先生を殴り、先生は生徒をいじめて殺す。野蛮な国からは、核を振りまくという脅迫を繰り返す。

毎日、テレビや新聞からは、このようなニュースが、繰り返して送られてきています。ある宗教者が「今は末法の世だ、

と言われていることを思い出します。

人間が人間たることを何をもって証明することができるのでしょうか？「人面獣心」という言葉があります。文字通り、顔は人の格好をしていても、心は獣（けだもの）の心しかもっていない、という意味です。人間が人間とならずに獣（けだもの）になってしまったから平気で人の命を奪えるのです。今や、まさに仏法がすたれた末法の世である、と言わねばなりません。

私共は皆、仏様からこの世に人としての命をいただいた（仏ほとけ）の子であります。それはまた、実に不可思議な、実に有り難い御縁であります。それ故に一念仏があるのです。

戦国乱世の時代を生き抜かれた親鸞聖人が遺された「世の中安穩なれ。仏法広まれ」というメッセージこそ、末法の世としての現代に生きる私共に贈つて下さつた親鸞聖人からのメッセージであると言わねばなりません。それこそ、この濁世を切り拓くキーワードであります。親鸞聖人の門徒として、私共は、この願いをしつかり受け止め、ご家族一同が「ただ念仏申す」という営みを実践していくよう努力していこうではありませんか。

上山奉仕団に参加して

上野保雄

平成二十三年に厳修される親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別事業の御影堂修復工事が行われている京都本山に、

去る九月十九日、二十日の両日、福井教区第四組十八ヶ寺の門徒会奉仕団の一員として、坊守様、桑原さんと三名参加させていただきました。総員二十五名、朝七時に出発し本山に十時半到着。直ちに計画されていた諸行事を終えると十時就寝です。上山二回目ですので、とまどうこともなくスムーズに運び、翌朝六時起床。午前中は、おあさじ、帰敬式、講義等があり、午後は古瓦洗い、御影堂素屋根見学等がありました。

特に感銘いたしましたのは、本堂の規模の大きさです。筆舌に表現出来ない驚きでした。この御影堂は、幕末の蛤御門の変で全焼失し、明治二十八年に再建された世界最大の木造建築物です。大人の人で三抱えもある樫の大柱数十本、屋根裏の下地の骨組の松の太木は何十本あるやら想像もつかない数で組まれているのを目の前に見て驚き、先人達がよくこれだけの材料を調達出来たものだ、と、只々感激と驚きの連続でした。想像もつかないご苦労があっ

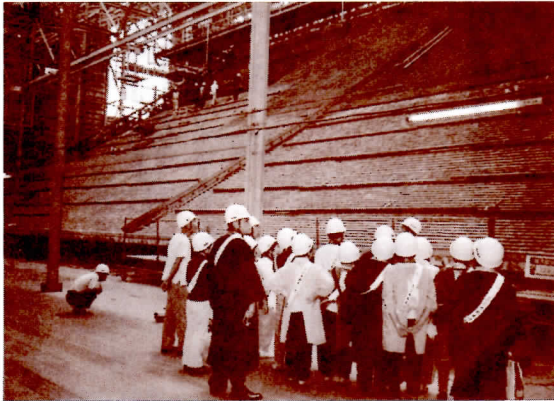
たものだろう、と今更ながら、昔の門徒達の立派さに敬意を表します。

「信は力なり」一致団結の力の象徴とは、この様なものかと思われた方は、私人ではないと思います。今、私達の心にこの尊い心があるだろうか？本心に恥ずかしい限りです。

当時、御影堂再建に携わった職人や奉仕団の門徒衆は、本山前に宿泊して、朝・昼・晩と毎日三回必ず正信偈をお勤めをして作業したと聞かされ、大人は瓦(十三才)三枚、十歳前後の子供は、瓦一枚を背負って、高い屋根に運んだとのこと。明治のご門徒の方々に

改めて尊敬と感謝を心より申し上げたい、と思いました。

平成二十三年の御遠忌まであと数年です。私共も先人の尊い意志を引き継いで、今の度は私達の手によって法燈を守り、念仏の教えを後世に相続していく責任と義務があるのではないかと深く感じさせられました。本堂に有意義な上山奉仕、だったと感謝しております。



明治初期に建立された本山御影堂の大屋根修復の現場。御影堂は、世界最大の木造建築物となっている。



親鸞聖人の御真影のおそばでの座談会は、参加者同士、様々な意見交換がある。それは何にも代えがたい本山でのお土産になる。

平成18年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に亙って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相統講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で任職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇―九一三〇七二一)
- ・ 加入者〓祐善寺

へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

■ 広瀬杲著 「親鸞の教え」を読んで

岡崎 優 大

この本を読んでまず驚いたことは、親鸞聖人は、約一世紀生きられたと書かれてあり、私は聖人が生きられた時代は、とても楽に生きられる時代ではなかったのに、聖人はよくこのような時代の中で九十歳まで生きられて凄いなと思う。もし、私が生きている時代が、聖人が生きられていたような時代ならば、とても九十歳まで生きるとは困難だと思います。

「真宗に遇ったということは、何も浄土真宗という宗旨、一宗一派ということではない。本当の意味で自分が一生をそれに托し切つて行くことの出来る教えに遇ったということ。」と書かれており、私は今まで真宗というと一宗一派で考えていましたが、ここで書かれてあるような意味があったとは知りませんでした。私は、真宗を学ぶということは、親鸞聖人を学ぶことに繋がっているのでは無いだろうかと思えます。

また、「人間は、願いに生きている存在」だと書かれてある。ここで書かれている通り、私たちはいろいろな願いによって生かされているのだと思う。だから、私たちはその願いに応えていく必要があると思う。「外(他)の言葉で言う并希望

に生きる・理想に生きる」と言つて良いだろう。

「如来の本願というものは、大悲の本願とも呼ばれる」と書かれてあるが、大悲というのは、どのようなことなのだろう。大悲とは、決して本願の説明ではなく、人間の願いの方が方向転換するときの実感とあるが、恩徳讃でうたわれている「如来大悲の恩徳」の大悲も、同じことなのだろうか。

阿弥陀という印度の言葉の意味は、ただ「無限」という意味ではなくて、「無限なるものに触れた時に発する驚きの声」として、現代でも印度人の生活の中では生きている、ということも知りました。

親鸞聖人が我々に教えて下さった事を一言でいうのなら、人生を空しく過ぐす事の無い道を示して下さいなのだ、と申して良いでしょう。

投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発刊を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。

どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。どしどしご投稿下さいますようお願いいたします。

永代経会

満堂の中で厳修

本年度の永代経会は、八月七日(月)に厳修されました。永代経会とは、亡き人を偲び、亡き人に願いをかけられて生かされていたに感謝することになづき、感謝申し上げる御仏事であります。

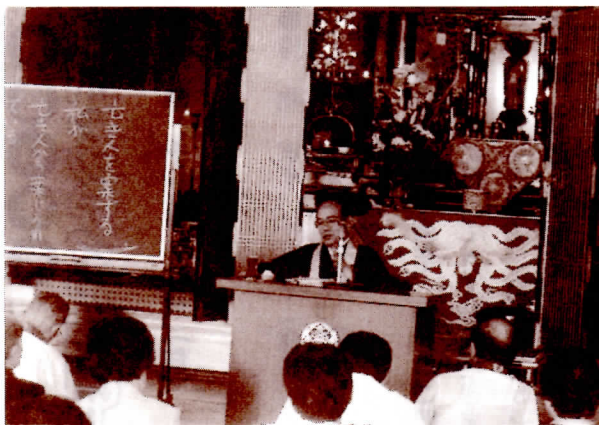
昨年の永代経会以降、この一年間に十人のご門徒様が亡くなられ、その方々の寺総墓への収骨が併せて行われていることもありましたが月曜日にも関わらず、本堂は参詣者の方々に満堂になりました。最近、どの寺でも何をやっても、参詣される方が極端に減つてし

まった、という嘆きをよく耳にします。が、有り難いことに、このように大勢の善男善女の方々に本堂が溢れるということは、この上ない勿体無いことでもありますし、この上ない喜びであります。

亡き人の総墓収骨で儀礼的に参詣された方もおられたかも知れませんが、忙しい中にも寺に足を運び、阿弥陀様の御尊前にごあいさつを申し上げ、お念仏を申し上げるという営みは、私達人間にとつて最も大事で、実に尊いことでもあります。なぜなら、亡き人が私達にかけられている願いとは、「ただ、念仏申せ!」ということに尽きるからであります。

永代経会の布教は、三国・智敬寺の木津祐昌師にお願いしましたが、布教を終えて控室で、「祐善寺さんは、お参りが本当に多いですね。また、私の話しも皆、本当に良く聴いて下さっていた。」と、絶賛して下さいました。

永代経会や亡き人の寺総墓収骨を良き仏縁として、寺に足をお運びいただき、亡き人の、仏様の願いに呼応していただいて、お念仏申し、仏法を聴聞していただいた平成十八年度永代経会。共にお念仏申させていた、いただいた者として、心より御礼を申し上げたいと思えます。



永代経会の法話は、三国智敬寺住職の木津師。

福井教区第四組 同朋会推進員養成講座のご案内

真宗大谷派福井教区第四組は、福井市・鯖江市・越前町の一部の大谷派寺院で構成されています。(当寺も第四組に所属しています)

この第四組では、平成十九年三月より第二期同朋会推進員養成講座を開催します。

同朋会推進員とは、各寺・各地域において、真宗同朋会の未結成の所にあつては同朋会を結成し、既に同朋会がある所においては、その内容を更に充実発展させていただくためのキーパーソンであります。同朋会推進員が一人でも多く誕生していただくことによって、それぞれの寺やそれぞれの地域で真宗同朋会の結成に結びついていって欲しい、という深い願いがあります。

幸い当寺には同朋会が既に結成され毎月(冬期間を除く)第一日曜日に実施されています。毎回、座談を中心にしておりますので、参集された方々の自由な意見が飛び交うなかで、真宗とは何か?親鸞聖人が願われていることは何か?そして、人として生きるとは何か?ということと一緒に考えさせていただいております。私も、毎月第一日曜日に、この同朋会を準備させてい

ただき、ご参加された方々と一緒に座談させていただくことが、とても張り合いになっていきます。

この同朋会が真の信仰運動になるよう、内容の充実、そして、参加される方の拡大等、会の推進に努めていかねばなりません。その意味でも、第二期同朋会推進員養成講座に、多くを期待するものです。どうか、皆様からの自発的なご参加をお願いいたします。

真宗大谷派福井教区第4組 第2期同朋会推進員養成講座の概要

◆講座の概要

◇入門講座：平成19年3月
(土曜日・計2回)

内容 お勤めの練習、お内佛のお給仕等
会場 福井市 大谷派福井教務所

◇前期講習：平成19年4月～8月
(土曜日・計5回)

内容 講義、座談

講師・大垣教区 沼秋香師
会場 福井市 大谷派福井教務所

◇後期講習：平成19年9月1～3日
(2泊3日)

内容 同朋会館に宿泊し、親鸞聖人の御真影の前で真宗の教えを体得する。

会場 京都・本山同朋会館

◆受講料 2,500円(テキスト代)

◆受講者 各寺で同朋会の運営や推進にご協力いただける方

※受講して下さる方は、住職までご連絡下さい。どうか、自発的なご参加をお待ちしております。

雪囲い作業 ポランティア募集!

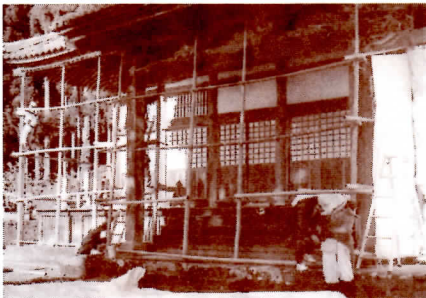
●日時 十一月十九日(日)
八時集合

●持物 軍手、ナイフ(鎌)

(悪天候時は、雨合羽をご用意下さい)

雪囲い作業は、例年、地元のご門徒さんを中心に行ってきたいただきましたが、作業にご協力いただき方がだんだん減ってきましたので、広くポランティアを募集させていただきます。

高所の苦手な方の作業もたくさんありますので、ご協力頂ける方は是非、十一月十五日までに祐善寺までご連絡下さい。傷害保険に加入するために、ご氏名、生年月日も教えて下さい。よろしく願います。



本堂の雪囲い用テント取り付け

おくやみ

上野正幸様(越前町新庄)には、平成十八年八月十日、行年八十三歳にて往生の素懐を遂げられました。御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。

年忌法要をお勤め下さい

ご門徒の皆様にとられましたは、かけがえのないご先祖様の、今年の年忌は左記の通りです。貴家の過去帳をご確認の上、今生かされていたいていことを感謝し御先祖様の年忌法要を、是非とも勤めて下さいませよう願っています。

百回忌	明治四十年没
五十回忌	昭和三十二年没
三十回忌	昭和四十九年没
二十五回忌	昭和五十七年没
十七回忌	平成二年没
十三回忌	平成六年没
七回忌	平成十二年没
三回忌	平成十六年没
一周忌	平成十七年没

第2回

御文講座

白骨の章(2)

いまにいたりてたれか百年の形骸をたもつべきや

今の世の中にあつて、一体誰がこの先、百年の間、命を保つことができるでしょうか？

我やさきひとやさき けふともしらず あすともしらず

私が先に行くのか、人が先に死ぬのか？今日死んでしまうのか、それとも明日に死ぬのか、それは誰もわからないのです。

をくれさきだつ人は もとのしづくすゑの露よりもしげしといへり

生き残る人も、先に死ぬ人も、草木の根元にしづくが落ちるように、人の命は、はかないものなのです。

されば朝には紅顔ありて 夕には白骨となれる身なり

つまり、朝には紅い若々しい顔をしていても、夕方には白骨となつてしまふ身であるのです。

其の13



お脇掛(2)

ご本尊とお脇掛

お内仏の正面中央にご本尊(阿弥陀如来)をお掛けします。お脇掛は、向つて右側に十字名号(帰命尽十方無碍光如来)を、左側に九字名号(南無不可思議光如来)をお掛けします。

ご本尊の両脇にお掛けする十字名号(帰命尽十方無碍光如来)と九字名号(南無不可思議光如来)のお脇掛は、単なる飾りではありません。

お釈迦さまの教えであります南無阿弥陀仏は、人間の知恵では量り知ることのできない寿と光(阿弥陀仏)に帰依(南無)する、寿と光を我が生命とするという意味があります(前回参照)

そのことを語つた帰命尽十方無碍光如来は、十方に尽きることのない碍りなき光の世界を生きる姿の表現です。南無不可思議光如来も同じように、人間の思慮分別を超えた光の世界に生きる姿を表現しています。九字名号・十字名号とも、阿弥陀仏を「光如来」と表現されたところに特徴があるように思います。

仏教は、迷いや不安、恐れからの解放

を説きます。しかし、私たちの力では、自らを迷いや苦しみから解放放つことはできません。そういう迷いや苦しみ(煩惱)で方向性を失つた世界は闇です。闇夜を不安なく真つすぐ歩くことができるのは、月の光や電灯の光があるからです。同じように、人間は光の仏さま(光如来)に出あえて初めて迷いや不安をのりこえ真つすぐ歩むことができるのです。闇を破るはたらき、それが光如来です。十字名号は天親菩薩の、九字名号は曇鸞大師の光如来に出あえた表現なのです。

すでにお話ししてきましたように、お内仏(仏壇)の中心は阿弥陀如来です。阿弥陀如来は、人生における真の本尊・南無阿弥陀仏を教え示そうとされた尊いお姿です。そして、その両脇の十字と九字の名号は、天親菩薩・曇鸞大師の南無阿弥陀仏に出あえた喜びの言葉といえます。

つまり、九字・十字の名号は、私たちの苦悩の闇を破る南無阿弥陀仏の世界(浄土)が真実であることを表わしているのです。そして、念仏申すことを私たちに勧められているのです。ですから、尊いのですし、手が合うのです。

こう理解してみますと、お内仏全体が、人生の闇を破る南無阿弥陀仏のはたらきを表していることがいよいよ知らされてきます。

「サンガ」より

お知らせ

報恩講

十一月二日(木)

日中 午前十時より

法話一席

御斎 午前十一時半

速夜 午後一時半より

法話二席

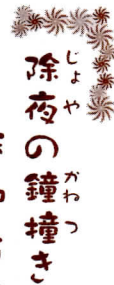
満座 午後六時半より

御伝鈔拝読

法話一席

布教 出雲路善嗣師

親鸞聖人の恩徳を偲び、皆様お誘い合わせの上、ご参詣くださいますようご案内申し上げます。



参加者募集!

日時 十二月三十一日

よる十一時四十五分から

一年の締めくくりである大晦日の夜、仏恩に感謝しつつ、行く年を振り返り来る年に思いを馳せながら「除夜の鐘」を撞きませんか?

寒い時ですが、勇気を出してご参加下さい。きっと、良い思い出が出来るに違いありません。

ラジオ放送

『東本願寺の時間』

- ・福井放送 (FBC)
- ・毎週日曜日
- ・午前7時30分～7時40分

日曜日の朝は、FBCラジオの「東本願寺の時間」から始まります。

入門 介護保険

介護保険法改正の概要について③

介護保険制度の導入以降、規制緩和により民間企業の参入が促進されました。その結果、悪徳業者の摘発等に見られるようにサービスの質の低下も懸念されてきました。

今回の改正では、サービスの質の確保、向上があげられています。利用者によるサービスの選択を通じた質の向上が図れるよう、情報開示の徹底、事業者規制の見直し等を行うとしています。

具体的には、介護サービス事業者に事業者情報の公表が義務付けられました。また、事業者規制の見直しでは、指定更新制(六年)が導入されることになりました。更に、ケアマネージャー資格の更新制(五年)や研修受講の義務化等、ケアマネジメントの適正化も図られます。

介護保険制度の大きな課題でもある負担の在り方については、低所得者の保険料軽減措置や従来、老齢年金のみが天引き対象であった保険料徴収方法が、遺族年金や障害年金にまで拡大されることになりました。

また「痴呆」という用語が適切でないとのことから、「認知症」という用語も法律に定義されました。

編集後記

★今年の夏は、うだるような暑い日が連日続きましたが、今では、そんな日があつたのかと思われる程、朝夕肌寒くなってきました。今年はまだ各地で熊の出没が相次いでおり、捕獲された数が昨年の五倍を越えたとか。被害も後を絶ちません。人の世が、どんだん獣によつて占領されていくのでしょうか? 田舎は住みやすいとは、一昔前の言葉になつてしまいました。

★今号には、上野保雄様に本山奉仕団へ参加された感想文を書いていただきました。現在、明治二十年代に再建された御影堂屋根修復中で、その修復現場を見学された上野様は、先人の血と汗のにじんだ偉業にただただ敬服されておられます。

★今年も元気に報恩講をお迎えすることができるとを、有り難く思います。皆様と共に親鸞聖人の恩徳に感謝しながら、報恩講をお勤めしたいと思ひます。お家でお勤めしていただく報恩講勤めも、この一年間、仏様に願われて生活させていただくことができた、ということを感じながらお迎えして頂きたいと思ひます。